

【消化器内科】

1. 概要・特徴

当院は地域がん診療拠点病院であり、かつ3次救命救急センターを有する地方センター病院です。約27万人が暮らす広大なオホーツク医療圏の最後の砦として、地域医療機関と連携して、救急疾患はもちろんのこと、消化器がん・肝疾患・胆膵疾患・炎症性腸疾患など、消化器内科の全領域の専門診療と一部希少がんの診療を365日24時間体制で対応しています。また、健康管理センターと協働し、胃がん内視鏡検診にも取り組んでいます。

当科は北海道大学消化器内科学教室の関連病院です。大学院で各領域の専門分野を修めた指導医と消化器内科医を目指す専攻医が協働し、グループ制で診療しています。

研修医の皆さんには、グループの一員として、まずは患者さんの下に足を運び、耳を傾け、診察し、患者さんの抱える問題を抽出するところから研修を始めていただきます。

患者さんは様々な問題を抱えています。我々が、如何に科全体で協力し合い、他診療科(特に外科、放射線科、緩和ケア内科など)と共に、他部門、多職種、そして地域と連携・協働して、消化器内科・腫瘍内科の診療を展開しているかを学んでいただきます。

当科での研修により、「消化器症状や消化器疾患で困っている患者さんの初期対応ができる医師」になっていただきたいと考えています。

所定の研修を修了すれば、指導医の下、実際に内視鏡検査を施行いただくことも可能です。

院内研修会や各種セミナー・勉強会等にも積極的に参加し学んでいただきます。

2. 一般目標

消化器症状や消化器疾患で困っている患者さんに適切な初期対応ができる。

3. 行動目標

- 1)適切な問診と診察を行って患者情報を収集し、適切に診療録に記載ができる。
- 2)医師のみならず、他職種・他部門スタッフと良質な情報共有ができる。
- 3)特に救急・緊急の場面で、適切に指導医に状況の報告、相談ができる。
- 4)診療の実務(診断、治療方針策定、患者説明、指示出し、処方、検査・治療施行、文書作成等)に参加できる。
- 5)経験症例等について指導医とともに学術的に検討し、院内外で発表ができる。

4. 研修方略

1)一年次(必修)

・グループの一員として病棟管理を担当

指示出し、診療録記載、回診時の患者診察、サマリー作成、院内診療情報提供書の作成
具体例として以下のような実際に学ぶ。

「どうやって診療録は書いたら良いのか(端的に過不足なく情報処理が出来る)」

「どうやって指示を出したら看護師は受けやすいのか(他職種とのかかわり方)」

- ・予約外受診患者・緊急来院患者の診療補助
- ・自らの業務を踏まえたインシデントレポートの作成
- ・臨床検査技師による腹部エコー検査研修
- ・外来、病棟における各種処置(腹水穿刺その他)の介助や実施
- ・内視鏡検査・治療の介助(ERCP、ESD、EMR、RFA 等)
- ・院内研修会等での発表

※以下、希望があれば行う。

- ・内視鏡検査手技の取得(患者モデルを用いた実技研修、修了試験合格後の実施)
- ・がん薬物療法の一般的理解(レジメン内容や効果などの知識獲得、治療継続時のオーダー)

2)二年次(選択)※2 回目以降ローテートする場合は、指導医・上級医が研修医の能力レベルを見極め個別に判断し研修を実施する(一年次の研修に加え、以下の如く検討します)

- ・予約外対応を頑張りたい→予約外業務担当日を増やす。
- ・内視鏡をやってみたい→内視鏡の練習と介助や見学を増やす。
- ・がん薬物療法を勉強したい→腫瘍内科外来への参加やグループ配属先の考慮
- ・消化器内科になりたい→希望でさらに調整。

5. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土・日
朝	病棟グループカンファレンス・回診					病棟回診 救急外来 (当番制)
午前	病棟(回診・カルテ記載等) 内視鏡検査 腹部エコー検査 救急外来(緊急搬送)一般外来(予約外)					
午後-	内視鏡検査・治療 特殊エコー検査・治療 病棟(病状説明等) 救急外来(緊急搬送)一般外来(予約外)					
夕	科内 症例検討会	キャンサーボード 外・放・緩和				

6. 指導体制

指導責任者:指導医 上林 実(副院長兼第一消化器内科部長)

指導医 松田 可奈(第二消化器内科部長)

指導担当者:診療部長以下当科全スタッフ、並びに外来・病棟・各部門の職員

7. 評価方法

北見赤十字病院初期臨床研修プログラムの規定に準ずる。